

令和元年度小豆島オリーブ検定(ビギナー検定・東京会場) 正解表

設問	正解	テキスト記載P	備考	設問	正解	テキスト記載P	備考	設問	正解	テキスト記載P	備考
問1	3	P68	オリーブ栽培の起源には諸説あるが、約6,000年前に小アジア地方で始まったというのが現在の定説になっている	問18	1	P40	モクセイ科オリーブ属に属する常緑樹である	問35	1	P70～71	②スペイン ③イタリア ④スペイン
問2	1			問19	3	P40～42	5月下旬～6月上旬にかけて開花する 1樹の開花期間は6～7日で、盛花期間は2～3日である。蜜ではなく、多量の花粉を風で飛ばす風媒花であるが、虫媒花もある	問36	4	P73	カラマタの用途はオイル用もしくはテーブルオリーブ用で、色が変わりにくいため主にギリシャ式のブラックオリーブ用に栽培される品種である
問3	3	P8	日本に初めてオリーブオイルが持ち込まれたのは、約400年前の安土・桃山時代であり、当時キリスト教伝道のため来日したフランスコ派のボルトガル人神父が携えてきたといわれている	問20	1		表面は厚い透明のクチクラに覆われて光沢のある濃緑色、裏面は密生した毛茸で銀白色になっている	問37	1	P47,48	②栽培開始時からわずか2年後にはその存在が確認されている ③存在が確認された当時は象鼻虫(ゾビチュウ)と呼んでおり、オリーブアナアキゾウムシという名称で呼ばれるようになったのは昭和24(1949)年からである ④成虫の生存期間は3～4年間
問4	4			問21	3		スミチオン乳剤の50倍液を使用する場合は、樹幹部に4～8月にかけて、葉・果実にからないように使用回数年3回以内で散布する	問38	3		②発病果実から採油されたオイルは味や風味に欠損が生じるため、発病果実は全て破棄しなければならない
問5	2	P9	日本へのオリーブ樹の伝来は文久2(1862)年及び慶応3(1867)年に、幕府医学所薬物園と横須賀に植えたのが最初とされている	問22	3	P44,45	花芽が付く条件には気温などの環境が大きく関係する	問39	2	P49	②発病果実から採油されたオイルは味や風味に欠損が生じるため、発病果実は全て破棄しなければならない
問6	1	P11,12	日露戦争によって、北方海域に広大な漁場を獲得し、膨大な量の魚介類の水揚げが可能となった。その魚介類の保存、輸送の手段として油漬けの手段がとられ、これに使用するためのオリーブオイルの国内自給が求められた	問23	3	P42	収穫量を上げるために受粉樹として異なる品種をある程度混植しているケースが多い	問40	2	P54～60	1970年代中頃まで主な採油法であった
問7	4	P12	明治40(1907)年に農商務省が、三重・香川・鹿児島の3県を指定し、翌年それぞれ1.2haの規模で試験栽培を開始	問24	3	P44,45	比較的の低温には強く、短時間の場合-10°Cで寒害が発生する程度である	問41	4		④ベースの接する部分がステンレススチールなので、他の金属イオンの影響を受けない
問8	4	P11	農商務省直轄であった神戸オリーブ園において、福羽逸人による管理が好成績を収め、明治15(1882)年に日本で初めてオリーブオイルの採取及びテーブルオリーブ加工が行われた	問25	4	P44	日照量が多いほど生育がよく、年間2,000時間以上の日照時間が望ましい	問42	2	P87	②オリーブボマスマオイルはオリーブボマスマ(採油粕)を溶媒や他の物理的処理することで得られるオイル
問9	1	P26	明治41(1908)年4月22日に519本を小豆島の西村に植栽した	問26	3		オリーブ樹は乾燥を好む植物とされているが、適度な降水量が必要となる	問43	1		インターナショナル・オリーブ・カウンシル(IOC)の基準における分類中、品質の高い順に、エキストラ・バージン・オリーブオイル、バージン・オリーブオイル(狭義)、オーディナリー・バージン・オリーブオイル、ランバンテ・バージン・オリーブオイルとなる
問10	4	P73～76	日本へは明治40(1907)年、農商務省指定試験開始時にアメリカ合衆国から導入された。実際にアメリカ合衆国から輸入されたのは3品種あったが、1品種は不明	問27	2	P45	土壤に対する適応性は高いが、排水しにくい重粘土、地下水位の高い低湿地では生育が極端に悪くなる	問44	2	P90,91	バージン・オリーブオイルはビタミンEやベータカロテン、ポリフェノール類などの抗酸化物質を豊富に含んでいる
問11	1	P14	大正11(1922)年から農事試験場に在籍	問28	3	P40,41,44,45	①オリーブ樹は生長が早く、高さが20mを超える場合もある ②オリーブ樹は常緑樹である ④オリーブの花は、1つの雌ずい(めしべ)、2つの雄ずい(おしべ)を持っている	問45	2		オリーブオイルに含まれる脂肪酸のうち約55～83%を占める
問12	4	P15,16	尾崎元扶は、香川県農業試験場小豆分場の初代分場長であり、オリーブ樹の自家不和合性の解明や苗木の育成法の確立など、オリーブ栽培進展の障害となる多くの問題点を解決し、日本におけるオリーブ栽培の基盤を構築した	問29	1	P73～76	国内オリーブ栽培のテーブルオリーブ用、オイル用兼用の最主要品種となっている	問46	3	P86,89	平成26(2014)年にIOC基準に準じた県独自のオリーブオイルの品質評価基準を策定、「かがわオリーブオイル品質評価・適合表示制度」を創設し、品質の高さと香川県産(または小豆島産)であることの表示を行っている
問13	2	P14,15	これにより、日本における果実加工はようやく一歩を踏み出した	問30	3		含油率は25%程度と非常に高い。一本でも実をつけやすく、耐寒性、耐病性にも優れている	問47	1	P87	エキストラ・バージン・オリーブオイルとは、遊離酸度がオレイン酸換算で100g中0.80g以下で、官能評価では欠陥の中央値が0.0で「フルーティー」の中央値が0.0を超えるもの
問14	3	P11,14	福羽逸人は、農学者、園芸家、造園家であり、三田育苗場植物御用苑係、宮中顧問官、宮内省大膳頭などを務める	問31	4		観賞用樹として最も苗木生産量が多いのが特徴	問48	3	P26,27	①香川県の県花に選ばれる ②香川県の県木に選ばれる ④小豆島オリーブ公園オープン
問15	1	P17,18,26	オリーブが農産物輸入自由化の第1弾の品目に組み込まれた	問32	2		世界中で多く栽培される主要品種。自家不和合性が強いなど弱点があるが栽培は容易	問49	1		昭和47(1972)年「オリーブを守る会」が結成され、3月15日を「オリーブの日」と定めた
問16	4	P33,34	平成29(2017)年に425tとなり、昭和39(1964)年のそれまでの最高収穫量である405tを更新した	問33	2	P52	香川県においてグリーンオリーブ(新漬け)用には黄緑色のオリーブ果実が使用される	問50	2	P100～102	香川県高松市生まれ。梨本宮にオリーブの絵を献上。これが、日本で最初に描かれたオリーブの絵となった
問17	4		昭和61(1986)年には33haまで減少したが、平成22(2010)年には小豆郡全体の栽培面積が110haとなり、これまでの最大栽培面積を上回った	問34	2	P73	53品種が保存されており、その内4品種が一般に栽培されている				